

# 保険と保険外（自費）治療の違い

現在、審美にかかわる歯の治療に関しては、健康保険が適応されるものと、適応外のものがございます。ここでは保険適応範囲や、治療法をご説明いたします。

## 保険内の審美治療

### ■メリット

- \* 白い歯 保険の適応範囲でも白い歯を作れますが、材料は樹脂のみになります。
- \* 前歯への適応 前歯の白い部分はプラスチックしか認められません。また、裏側は保険適応外となり、金属になってしまいます。
- \* 素材 健康保険ではレジンとレジン（プラスチック樹脂）に微細なセラミックを混ぜた複合樹脂である硬質レジンがあります。
- \* 費用 保険が適応されるので料金的負担が少ない。

### ■デメリット

- \* 素材 セラミック等は使用できません。
- \* 前歯 前歯への硬質レジンの治療には、保険が適応しますが認められる範囲は歯の表面のみで、裏側は金属になってしまいます。
- \* 強度 樹脂の強度はあまり強くないためしばしば破折をすることがあります。
- \* 仕上がり また色についても透明度が比較的低いため、セラミックのような自然な色は出にくくなります。
- \* 天然歯との比較 欠点としては、水分吸収し変色しやすく耐久性もあまり優れていないこと、透明感やつやの問題もあり天然歯と同じように作ることが困難であるといえます。

## 保険外（自費）の審美治療（セラミック、ゴールド）

### ■メリット

- \* 身体への影響 生体親和性が高いため体にやさしく、金属アレルギーの心配もありません。
- \* 自然な仕上がり 裏側まで全てセラミックを用いたものがオールセラミックで、自然な仕上がりになります。
- \* 自然な使用感 歯とほぼ同じ硬さなので、噛み心地も優しく安心で、金属の透過による歯肉の黒変や金属自体の露出もありません。
- \* 二次的虫歯の予防 その他適応外としては、ゴールド修復があります。ゴールドも生体親和性が高くアレルギーが起きにくい金属で、延展性があるので抜群の適合性を有するため、隙間より細菌・唾液の浸入が少なく、二次的な虫歯を発生しにくいと長持ちします。
- \* 強度 ゴールドは腐食に強く適度な弾力と固さがあるため隣の歯や噛み合う歯の負担が少なく、歯を支える組織に過度な負担をかけないなど多くの利点があります。  
見た目を気にしなければ奥歯に関しては、最適な材料のひとつといえます。

### ■デメリット

- \* 費用 セラミック、ゴールドは保険適応外になり、料金的負担が比較的大きい。